

▶▶▶ 地域文化財の保存と活用を通じた歴史・文化の継承事業

## 歴史的な出来事を体験した人々やコミュニティの証言を聴き取り、次世代に継承する

### ▶ プロジェクトメンバー

- 長廣 利崇（経済学部）
- 芦田 昌也（経済学部）
- 小関 彩子（教育学部）
- 東 悦子（観光学部）
- 山神 達也（教育学部）
- 吉村 旭輝（紀州経済史文化史研究所）

○はプロジェクト代表

### ▶ 共創相手

- 和歌山県古座川町西川地区
- 和歌山県中南米交流協会
- 那賀移民史懇話会
- フランク・淳子氏

### プロジェクトの背景

地域社会には、関係者のあいだでのみ共有されてきた歴史や文化が多数存在する。人々にインタビューを行い、それを録音して収集される口述の資料（オーラルヒストリー）を保存・公開するアーカイブスの構築は、そうした歴史・文化を次世代へと継承することに貢献しうる。関係者にとっては、自身の経験や所属するコミュニティの歴史・文化が継承に値する価値を有することの発見につながりうる。

### プロジェクトの目的

このプロジェクトの目的は、オーラルヒストリーを用いて紀伊半島の歴史・文化を発掘することである。歴史的・社会的な出来事を体験した人々の証言を聴き取るオーラルヒストリーの手法は、歴史学のみならず、様々な学問領域で採用されてきた。体験者の生きられた経験を重視するこの方法は、文献資料には必ずしも記録されておらず、出来事に関係する人々のあいだでのみ共有されてきた歴史や文化を発掘するのに適している。さらには、収集した音声録音をテキストマイニングし、文理融合型の研究を進めることも研究目的のひとつとなる。

2022年度の活動は、①災害からの復興過程を介して見る地域の姿の調査、②和歌山県の移民史を織りなす

人々の記憶の調査、③和歌山県からフランスに移民した女性へのインタビュー調査、④和歌山県の女性起業家の経験の調査とそのテキストマイニングを実施した。

### プロジェクトの活動内容

#### ①災害からの復興過程を介して見る地域の姿（山神・吉村）

和歌山県古座川町を対象とし、日本屈指の多雨地域である古座川上流部の西川地区などで調査を実施した。西川地区では住民2名にインタビューを実施して災害や集落の変遷に関する証言を得るとともに、決壊リスクが高いとして改修されたため池の現地説明を受けた。西川地区の調査では、約2時間の動画を撮影した。



写真1 改修後のため池（西川地区、2023年3月撮影）

## ②和歌山県の移民史を織りなす人々の記憶（東）

明治期より多くの和歌山県民が海外へ移民し、その数は全国6位といわれている。2022年度は、2021年度に座談会形式で収集した声の記録の整理、和歌山県の北米移民の先駆けの地といわれる紀の川市において、地域の移民調査を精力的に実施している団体の代表に、移民した祖先にまつわるエピソードやこれまでの調査から得られた知見などをインタビューした。

## ③和歌山県からフランスに移民した女性へのインタビュー（小関）

和歌山県出身の女性のオーラルヒストリーと、和歌山県から海外に移民した方のオーラルヒストリーとを収集してアーカイブに残すという、二つのプロジェクトの双方に関係する調査のために、和歌山県出身でフランス在住の女性にインタビューを行った。和歌山での戦争体験、東京での学生時代、結婚に伴ってフランスに移住して以来の生活・家族・仕事などに関して、一人の女性が生きた90年のライフヒストリーを聞き取り、録音した。今後、語られた言葉を記録して残すためにデータ化し公開する予定である。



写真2 フランク・淳子氏（フランク氏宅、2023年1月撮影）

## ④女性起業家のテキストマイニング（芦田・長廣）

起業におけるジェンダー差の存在が指摘されているものの、和歌山県におけるその実態は解明されていない。起業における男女差に関する研究をするにあたって、本研究は、今まで注目されてこなかった、女性起業家からのインタビューをテキストマイニングする手法を用いた。2022年度に実施した1人の女性起業家のインタビューに、2021年度に実施した2人を加え、合計3人の女性起業家のインタビュー・データを対象に

単語の出現頻度や共起関係などを抽出・分析した。この成果の一部は、2023年3月9日の本研究所の研究会において公表された。

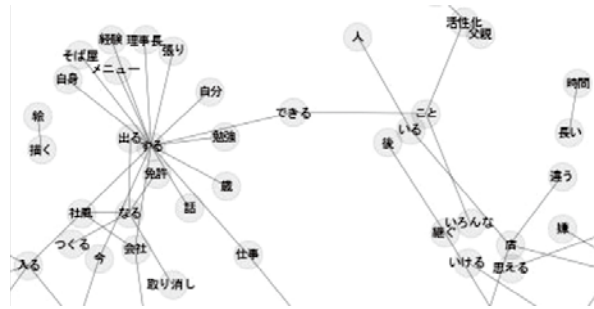


図1 係り受け関係にある単語のネットワーク

## プロジェクトの成果

地域の人々にインタビューし、それを記録する歴史と文化の継承事業を進めた。

災害時の被災状況や災害からの復興過程に関する証言を収集して、防災・減災に向けた基礎資料とするとともに、災害を介して地域のあり様を記録することができた。テキストマイニングについては、インタビューの書き起こし記事から、係り受け関係にある単語の組を抽出し、図1（紙面の都合上、一部分を切り取って掲載）に示すようなネットワーク構造として記述することができた。移民調査に関しては、人々の生の多様なあり方を記録することができた。

これらの成果をアーカイブズとして保存・公開していきたい。

